



写真-5 発生した鳴門海峡の渦潮



写真-6 湧昇流（出典：南あわじ市提供資料）

3. 国内の主な海峡の学術的考察（上嶋委員提供資料）

1) 主な海峡・瀬戸の潮流エネルギー賦存量と利用可能量

表-6 主な海峡・瀬戸の潮流エネルギー賦存量と利用可能量 M2潮流

	潮流エネルギー賦存量 ($\times 10^3 \text{ kW}$)	利用可能エネルギー量 ($\times 10^3 \text{ kW}$)	
		全断面利用	30%断面利用
鳴門海峡	127.7	18.2	5.5
明石海峡	100.4	14.3	4.3
来島海峡	401.6	57.1	17.1
タコ水道	104.2	14.8	4.4
速吸瀬戸	622.2	88.6	26.6
早崎瀬戸	159.6	22.7	6.8

（出典：中国工業技術試験所研究報告第7号/1986年）

2) 鳴門海峡を挟む潮位および水位差の時間変化

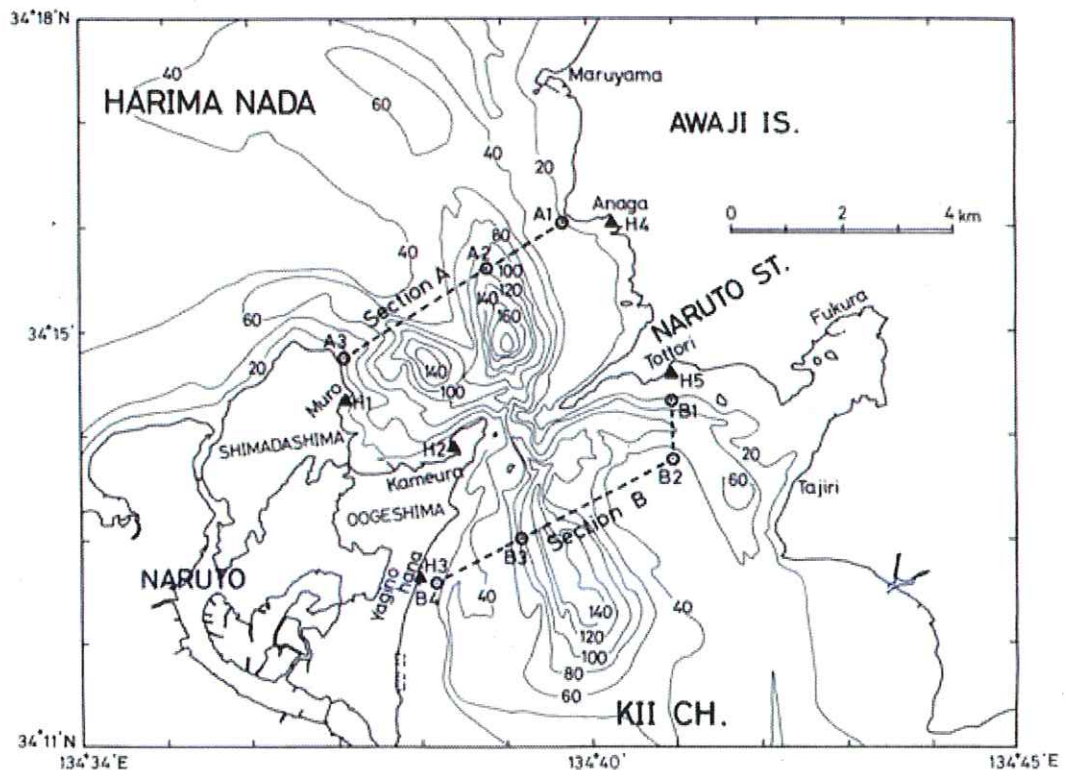


図-10 鳴門海峡の地形と観測線

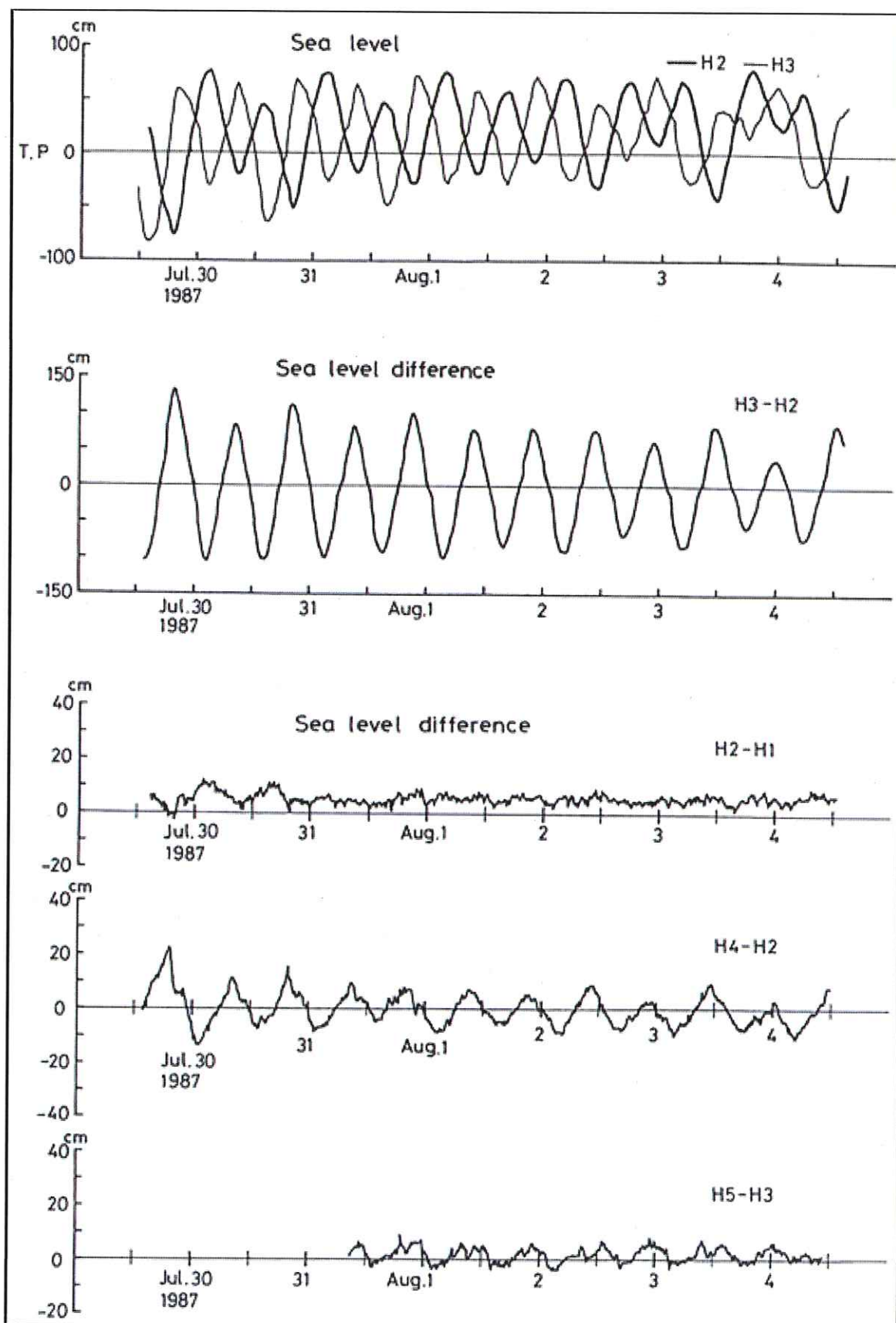


図-11 鳴門海峡の潮位の変化と水位差

3) 大畠瀬戸を挟む潮位および水位差と流速の時間変化

※大畠瀬戸(おおばたけせと): 山口県南東部に位置し、本州と周防大島(屋代島)に挟まれた、全長約750m、深さ約20mの海峡である。日本三大潮流の一つに数えられ、その渦潮は「万葉集」にも歌われている。

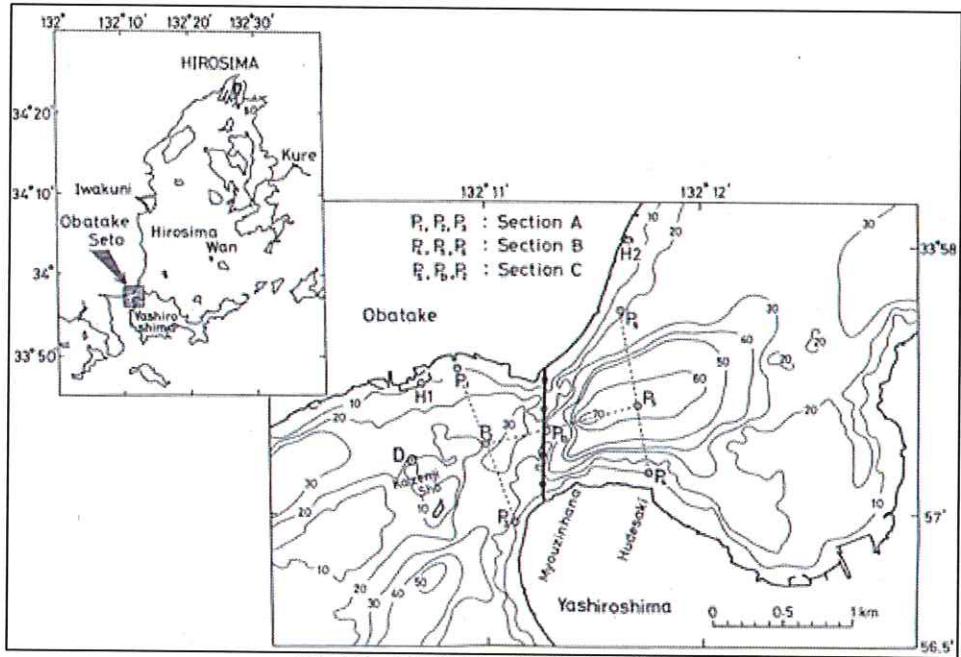


図-12 大畠瀬戸の地形と観測線

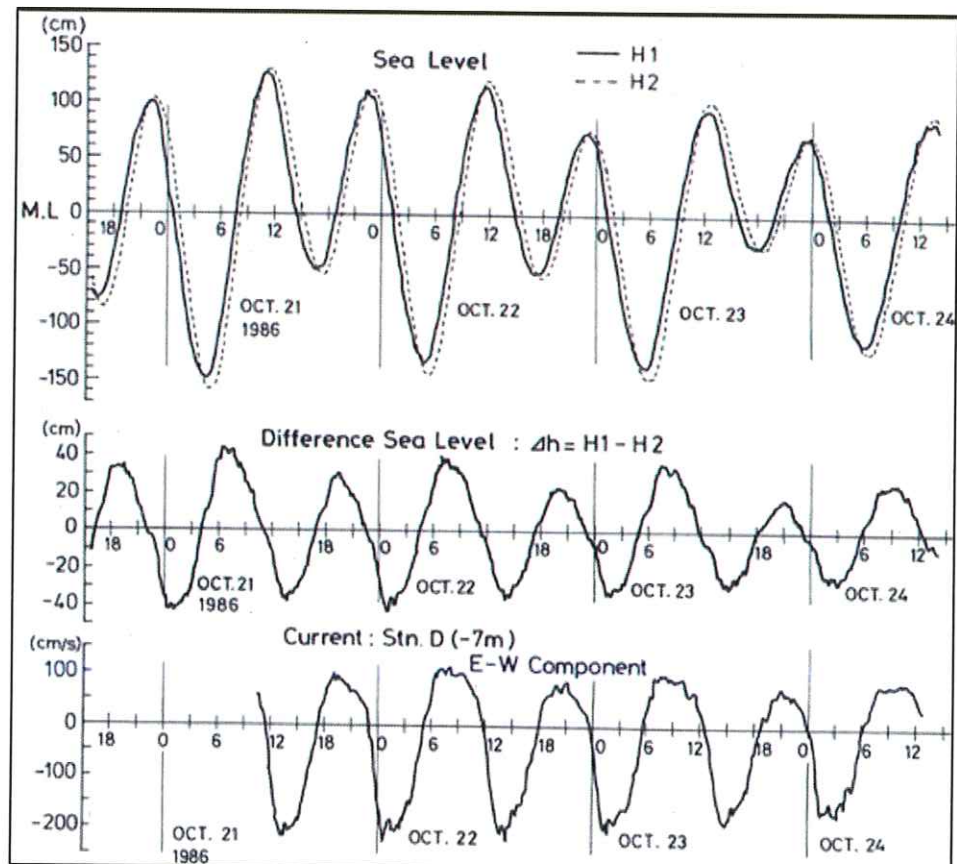


図-13 大畠瀬戸の潮位の変化と水位差